

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	国内都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤 宏
		担当者名	金田幸三	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	姉妹・友好都市交流（07-64-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	56年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図る。				
対象者等	区民				
内容	<p>秩父市（旧荒川村・平成17年4月1日合併）：リンゴとS Lの旅（公募区民等によるリンゴ狩りとS Lの旅：勤労者福祉サービスセンターで実施し、その費用の一部を補助する。）「区民リンゴ園」リンゴ狩り事業（平成3年度に姉妹都市提携10周年記念事業として始まり、平成8年度より区民が実費を支払い、各自で収穫を行ってきた。事業開始から14年が経過し、旧荒川村及びりんご園の意向により平成16年度で事業終了とする。）</p> <p>大多喜町：たけのこ狩り（公募区民等による竹の子狩りを行う農業体験：勤労者福祉サービスセンターで実施し、その費用の一部を補助） 大多喜お城まつり参加（ステージ出演団体<天王太鼓つくも会>を派遣。区職員がバスで引率する。19年度雨天中止）</p> <p>鴨川市：ふるさといきいきSEA FESTA IN KAMOGAWA参加（出店団体<都電の街グループ>に謝礼を支払い派遣）、区長式典出席</p> <p>上越市：上越市観光と物産展参加（出店団体<都電の街グループ>に謝礼を支払い派遣）</p> <p>桑折町：こおり桃源郷「桃の郷まつり」参加（出店団体<都電の街グループ>に謝礼を支払い派遣）</p> <p>福島市：収入役ほか13名、区長を訪問（桃のキャンペーンと桃の試食）、女性団体消費者懇談会、福島市から桃の花枝寄贈（区内小学校、公共施設等配付）、うつくしま地域間交流シンポジウム区長出席、防災協定調印、福島市より天津水蜜桃が贈呈され植樹式を実施（平成19年）</p> <p>小野町：交流事業（荒川区青年団体連合会13名参加（平成19年度））</p>				
経過	<p>秩父市（旧荒川村）17.4.1合併（S56姉妹提携、H7防災協定）、北杜市（旧高根町）16.11.1合併（昭62年から交流）、上越市（旧吉川町）17.1.1合併 昭62から交流（H7防災協定）、大多喜町 昭63年から交流（H7友好都市提携・防災協定）、鴨川市 平成元年から交流（H3友好都市提携・H7防災協定）、福島市、桑折町、石川町 平成6年から交流（福島市H18防災協定、石川町H8防災協定）、釜石市 平成10年から交流（H11防災協定）</p> <p>他に、新潟県荒川町、富山県射水市（旧下村）、山形県鮭川村、茨城県潮来市、福島県二本松市（旧東和町平成17年12月1日合併）、福井県、福島県小野町と交流を行っている。</p> <p>H17年度「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」策定</p>				
必要性	<p>秩父市：リンゴとS Lの旅（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から（17年度はひょう害のため中止） 大多喜町：竹の子狩り（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から 福島市：収入役ほか13名が、区を表敬訪問、桃の試食会およびキャンペーン。その他、各都市のイベントに団体を相互派遣している。</p>				
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>秩父市：リンゴとS Lの旅（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から（17年度はひょう害のため中止） 大多喜町：竹の子狩り（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から 福島市：収入役ほか13名が、区を表敬訪問、桃の試食会およびキャンペーン。その他、各都市のイベントに団体を相互派遣している。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算額		931	803	679	663	969	1,526	2,748
決算額（20年度は見込み）		505	548	535	238	528	491	2,748
人件費					3,924	4,538	3,843	
【事務分担量】（%）					60	60	45	
合計（+）		505	548	535	4,162	5,066	4,334	2,748
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		505	548	535	4,162	5,066	4,334	2,748
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	秩父市交流事業数	2	2	2	0	3	3	
	大多喜町交流事業数	2	2	2	2	2	2	
	鴨川市交流事業数	1	1	1	1	1	2	
	北杜市交流事業数	1	1	1	0	0	0	
	上越市交流事業数	1	1	2	1	1	1	
	桑折町交流事業数	1	1	1	0	1	1	
	福島市交流事業数	1	1	3	2	3	5	
	釜石市交流事業数	0	1	1	0	0	1	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
予 算 ・ 決 算 の 内 訳	報償費	まつりの出店団体謝礼	134	まつりの出店団体謝礼	114	まつりの出店団体謝礼	570
	職員旅費	交流事業調整、まつり参加	150	交流事業調整、まつり参加	44	交流事業調整、まつり参加	717
	食糧費	交流都市等訪問時賄い	4	交流都市等訪問時賄い	5	交流都市等訪問時賄い	10
	一般需用費	交流事業調整、まつり参加土産	13	交流事業調整、まつり参加土産	210	交流事業調整、まつり参加土産	124
	役務費	暑中見舞い用はがき	0	暑中見舞い用はがき	0	保険料	21
	使用料及び賃借料	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ	120	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ	0	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ/小野町バス借上げ	1,067
	負担金及び交付金	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	107	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	117	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	117

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	交流都市数	16	16	17	19	20	
	交流事業実施都市数	6	11	13	14	15	

（問題点・課題分析）	<p>より多様な交流のため、交流事業を文化交流推進課のみにとどめず、他の関係部課とも調整する機会を設ける。</p> <p>行政同士の交流にとどまらず、住民相互が交流し、各都市を体感できるような企画を検討する。</p> <p>全ての交流都市において同レベルの交流をすることは難しいため、優先順位をつけて密度の濃い交流を行うことが考えられる。</p>
	<p>（実施 区 未実施 区）</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	関係部課による連絡調整会議を設置し具体的な交流内容を検討する。	各都市との幅広い交流ができる。
	訪問バスツアーをはじめとして、産品・グリーンツーリズムなど、単なる観光に終わることなく各都市の魅力・特典を実感できるような事業を企画・検討する。	区民が年間を通して各都市と交流ができるようになる。
	各交流都市の荒川区との交流に対する考え方や、各都市の交流資源を調査・把握し、事業実施の検討の材料とする。	事業実施を検討するにあたり、より密度の濃い交流内容の実現が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	交流資源を掘り下げ、区民主体の事業を今後も積極的に展開する。

議 会 （要 質 問 状）	他自治体との友好交流のあり方について、基本的な考え方。（17年2定）
------------------------------	------------------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	国際交流協会補助	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	浦田寛士	内線	2 5 2 6
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	国際交流協会補助（07-68-33-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 5年度	根拠	荒川区国際交流協会補助金交付要綱		
終期設定	有 無 年度	法令等	設立趣意書		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	荒川区国際交流協会を支援することにより諸外国との友好交流を推進するとともに区内在住外国人を支援し、相互理解を深め、荒川区を世界に開かれたまちにしていく。				
対象者	荒川区国際交流協会				
内容	荒川区国際交流協会の概要 設立 平成5年10月21日 組織 理事：12人、事務局：5人（区職員兼務）、監事：2人 役員 理事長：岡本義雄 副理事長：三嶋重信（副区長） 常務理事：小林清三郎 事務局長：佐藤安夫（区民生活部長） 会員 賛助会員：104件（団体・企業15件、個人89人） 協力会員：348人（日本人328人、外国人20人） 20年5月1日現在 目的 諸外国との国際交流を民間レベルで行うとともに、区内における、様々な人々の国際的相互理解と友好交流を推進する拠点として設立 事業（開始年度）、人数等は19年度実績 在住外国人支援事業 ・外国人のための日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）...年間132回（66回×2コース） ・外国人無料専門家相談会（14年度）...18年度は行政書士による相談会のみ実施 月1回（後援事業）、19年度より廃止 ・留学生等への生活用品支援（6年度）...年2回（4月10月）、ボランティアからの寄付物品を日本語学校等に配付 世界の国々との交流事業 ・オレゴン州立大学研修生受入支援（13年度）...0人、ウィーン大学研修生受入支援（17年度）...2人 ・ドナウシュタット区児童生徒絵画展（5年度）...小学校の図画工作展、中学校の作品展に同時展示 ・ドナウシュタット区の高校生受入（6年度）...7人、ドナウシュタット区への高校生派遣（9年度）...5人 ・【18年度】ウィーン市ドナウシュタット区区民ツアー、大連市中山区区民ツアー、済州市区民ツアー、済州市での荒川区写真展、ドナウシュタット区友好提携10周年記念事業（コンサート2回、レセプション、ドナウシュタット区展） ・【19年度】ウィーン市ドナウシュタット区柔道交流、大連北京訪問区民ツアー 区民相互の交流事業 ・川の手荒川まつり参加（6年度）...パネルによる友好都市紹介と協会パンフレット等の配布 ・日本語スピーチコンテスト（7年度）...発表者15人 ・国際交流サロン（6年度）...盆踊り：外国人16人、日本人14人 ・国際交流バスハイク（6年度）...交流都市つくば市（筑波山・サイエンススクエア）、外国人25人、日本人12人 ・茶道教室（13年度）...月2回、延べ94人 ・着付教室（14年度）...延べ23人 ・外国人学生ホームビジット（6年度）...24組48人 国際理解事業 ・日本語サロン（10年度）...週1回×2コース、ボランティアによる自主運営 ・日本語ボランティア養成講座（6年度）...36回（18回×2コース）、前期修了者24人 ・東京外国語大学公開教室「世界のことば」（9年度：昭和61年～平成8年度区実施）...外語国際交流会館移転により17年度で終了 広報調査事業 機関紙の発行（5年度）...17年度より「関係団体ニュース」、事務局だより（月1回）、荒川区産業展出展（9年度） その他 ボランティア通訳の派遣、翻訳、各種公共・民間等主催事業の共催・後援・協力など				
	経過	自主財源は会費及び事業収入等で、12年度までは総収入の15%程度であったが、区の補助金減少、賛助会員の増強や新たな受益者負担により、15年度以降は45%程度となった。17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため、自主財源率は38%となった。18年度予算ではドナウシュタット区訪問等経費増による区補助金増により、自主財源率は22.1%である。19年度は37%、20年度は38.3%である。			
必要性	多文化共生意識を育み、世界に開かれた街としての荒川区の魅力や活力を高めるといふ区の方針を実現するために事業を行っている団体であり、支援は不可欠である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 協会より派遣依頼を受け、区民生活部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員として兼職。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	予算額	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	決算額（20年度は見込み）	4,003	3,843	3,690	5,147	11,632	6,547	6,247
	人件費	3,956	3,546	3,629	4,864	9,530	4,382	
	【事務分担量】（%）				11,205	11,102	9,394	
	合計（+）	3,956	3,546	3,629	16,069	20,632	13,776	0
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	3,956	3,546	3,629	16,069	20,632	13,776	0
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	協力会員（件数：団体+個人）	263	303	280	303	328	348	
	賛助会員（人数）	115	121	136	144	78	104	
	補助金の協会事業に占める割合	60.1%	55.2%	54.2%	65.3%	58.2%	62.8%	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	国際交流協会補助	9,530	国際交流協会補助	4,382	国際交流協会補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	協力会員数	303	328	348		400	
	賛助会員数	144	78	104		200	個人+団体数
	区民ツアー実施都市数		3	1		3	

問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流協会の会費収入や事業収入等、自主財源率の向上に努め、財政基盤を確たるものとする。 外国人住民の増加に対する需要に応えるため、区関係課やNPQ、関係機関との連携・協力体制を強化する。 ボランティアの育成・研修および交流の機会を設け、組織化を図る。 平成17年11月に区が策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」および友好都市の意向を踏まえて、具体的な交流の進め方や継続的な交流のあり方について検討する必要がある。
	他区の実況 （実施 11 区 未実施 11 区） 東京都国際交流団体連絡会議

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
協会事業の周知するため、区HP・区報・CATVを積極的に活用する。	協会事業の理解を深めるとともに、協力・賛助会員数を増やすことにつながる。
海外都市交流区民ツアーを実施する。（ウィーン・大連市中山区・済州市）	区民・民間レベルでの交流が深まる。
民間交流補助制度を活用してもらおうよう、団体等に働きかける。	区民・民間レベルでの交流が深まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	区民主体の国際交流の推進母体として支援が必要である。

状況（要旨）	
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	海外都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	浦田寛士	内線	2526
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	海外都市交流事業(07-68-66-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	5年度	根拠	友好都市提携協定
終期設定	有	無	年度	法令等	国際化推進員設置要綱
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	海外都市に対する区民の関心を高めることにより、世界に開かれたまちとしての荒川区の魅力や活力を高めるとともに、産業交流等により区内の優れた技術や製品を広くアピールする。（荒川区都市間交流に関する取り組み指針）				
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナウシュタット区（オーストリア共和国ウィーン市）...平成8年10月21日提携 ・済州市（韓国済州道）...平成18年2月17日提携 ・中山区（中国大連市）...平成18年3月10日提携 ・コーパリス市（アメリカ合衆国オレゴン州）提携調印は無し ・その他 北京市通州区、シンガポール市、マレーシア（クアラルンプール・マラッカ市） 				
内容	海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等 ・ドナウシュタット区：区立諏訪台中学校とシモンズガッセ2か国語中学校とのメールによる交流、ウィーン大学生の荒川区での研修受入（参考...東京荒川ライオンズクラブとウィンドナウライオンズクラブとのクラブ提携） ・済州市：区民ツアー、写真展、済州市研修生受入 ・中山区：区民ツアー、産業交流（日暮里ファッションショー）、荒川区にて少年野球交流試合 ・コーパリス市：オレゴン州立大学研修生受入				
経過	<ドナウシュタット区> ・4年度 児童生徒絵画展（以後荒川区にて平成11年度を除き毎年） ・5年度 荒川区長ドナウシュタット区（以下、ド区）訪問 ・6年度 ド区高校生受入（以後11、14年度を除き毎年） ・7年度 荒川少年少女合唱隊ド区訪問 ・8年度 友好都市提携調印・ド区長来区、荒川公園で記念植樹（さくらの木） ・9年度 荒川区高校生ド区へ派遣（以後毎年） ・13年度 提携5周年記念荒川展ド区で開催、南千住駅東側にドナウ広場・ドナウ通り完成、ド区に荒川通り開通、交流壁画、区民ツアー（協会事業） ・14年度 ド区代表団を迎えドナウ広場で彫刻「ドナウの調べ」除幕 ・18年度 友好都市提携10周年記念事業、区民ツアー ・19年度 荒川区柔道会ド区訪問 <済州市> ・17年度 済州市市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長ほか出席、両区・市長の相互訪問、友好都市提携調印、荒川区にて済州写真展開催 ・18年度 荒川区写真展（済州市と共催）を済州市で開催、代表の相互訪問、区民ツアー（協会事業） <大連市中山区> ・17年度 両区長の相互訪問、友好都市提携調印、荒川区産業展において大連文化展開催 ・18年度 友好都市提携調印式（中山区）、代表団相互訪問、産業交流（日暮里ファッションショー・産業展）、大連市少年野球チームの小学校訪問と区少年野球チームとの交流試合（大連ウィーク）、区民ツアー（協会事業） ・19年度 区民ツアー（協会事業） <コーパリス市> ・4年度 児童生徒絵画展（以降7年度まで相互開催） ・5年度 コーパリス市長夫妻荒川区訪問 ・6年度 荒川区長コーパリス市訪問、荒川区職員研修生コーパリス市派遣 ・9年度 オレゴン州立大研修生受入（2名11年度・15年度を除き毎年1名来日） 9年度以降は大学との交流のみ <その他> ・シンガポール：区立中学生2年生をシンガポール市・マレーシア（クアラルンプール市・マラッカ市）に派遣（昭和59～平成10年度）、中学生派遣10周年記念でシンガポール・マレーシア（クアラルンプール・マラッカ市）小中学生受入（7～13年度） ・北京市通州区ほか：小中学生の学校訪問による交流など				
必要性	荒川区の友好都市との交流事業(済州市、中山区との新たな交流体制の構築、ドナウシュタット区との交流促進)ほか区の国際化事業を推進する。				
実施方法	(直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) ウィーン大学・オレゴン州立大学研修生の受入を除き、交流事業は基本的に荒川区国際交流協会が実施。				

	(単位：千円)							
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額	4,256	2,797	2,748	9,565	18,399	16,292	16,482
	決算額(20年度は見込み)	4,108	2,673	2,573	9,207	18,399	10,279	
	人件費				5,171	5,124	4,270	
	【事務分担当量】(%)				60%	60%	50%	
	合計(+)	4,108	2,673	2,573	14,378	23,523	14,549	0
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	4,108	2,673	2,573	14,378	23,523	14,549	0
	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
海外出張旅費支出人数	1	0	0	20	30	9		
海外受入団体数	2	1	2	6	4	2		

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報酬	国際交流推進員報酬	5,050	国際交流推進員報酬	7,588	国際交流推進員報酬
共済費	国際化推進員社会保険料	560	国際化推進員社会保険料	895	国際化推進員社会保険料	960	
報償費	交流事業コーディネーター	453	交流事業コーディネーター	0	交流事業コーディネーター	0	
旅費	交流都市訪問等	5,807	交流都市訪問等	1,482	交流都市訪問等	5,815	
食糧費	訪問団等賄い	1,767	訪問団等賄い	250	訪問団等賄い	700	
一般需用費	交流都市訪問団賄・記念品	151	交流都市訪問団賄・記念品	18	交流都市訪問団賄・記念品	210	
役務費	翻訳・通訳	228	翻訳・通訳	3	翻訳・通訳	570	
使用料	現地バス借上等	381	携帯電話レンタル等	42	携帯レンタル・バス借上	405	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	訪問回数	5	5	4		3	荒川区 交流都市
	受入回数	6	4	2		3	交流都市 荒川区

（問題点・課題）	・平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」及び各友好都市の意向を踏まえて、具体的な交流の進め方や継続的な交流のあり方について検討する。
	・日壤修好通商航海条約締結140周年を記念し、荒川区とドナウシュタット区共同による記念事業の開催について検討する。
他区の実況	（実施 21 区 未実施 1 区） 姉妹・友好都市提携状況

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	・ドナウシュタット区との交流 19年度柔道交流を皮切りに、文化・スポーツ・教育面でのさらなる交流事業を展開する。	文化・スポーツ・教育等の分野における交流が深まる。
	・済州市との交流 友好都市提携として、スポーツ（マラソン）交流事業を展開する。	観光分野における交流事業を通して、交流が深まる。
	・大連市中山区との交流 友好都市提携を契機として、産業だけではなく、文化・スポーツ・青少年交流事業を展開する。	文化・スポーツ・青少年交流事業を通して、交流が深まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	国際理解、文化振興のため大きく貢献する事業である。

議（要質問状）	・18年二定（斉藤泰紀議員）「今後、都市間交流を進めていくにあたっての区の考えについて」
---------	----------------------------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	国際交流高校生サミット	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤 宏
		担当者名	浦田寛士	内線	2526
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	海外都市交流事業(07-68-66-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	（区制施行75周年記念年事業）
終期設定	有	無	19年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	荒川区と交流のある海外・国内の都市から高校生を招き、区内の高校生との意見交換の場を設け、同じ世代を生きる高校生として相互理解を深めるとともに、海外での社会貢献活動など国際交流の場で活躍する著名人による講演会を開催し、区民の国際交流への理解を深める。				
対象者等	(1) 国内交流候補都市（4都市） 秩父市・鴨川市・福島市・つくば市 (2) 国外交流候補都市（7都市） ウィーン市ドナウシュタット区・大連市中山区・済州市・オレゴン州コーバリス市 北京市通州区・シンガポール・マレーシアジョホールバル市 以上の各都市高校生2名と引率者1名、荒川区高校生5名程度 (3) 区民一般				
内容	8月14日から19日の6日間のサミットプログラムで、次の2点をメインイベントとし、この他にレセプション、区長表敬訪問、施設見学、茶道体験等を通して相互交流を図る。 1 国際交流高校生サミット (1) 期日 平成19年8月16日（木） (2) 場所 ADEKA新本社ビル 14階会議室（東尾久7-2-35） (3) テーマ 「私たちにとっての豊かさ・幸せ」 (4) 内容 テーマについて各高校生が発表し、その内容について議論する。 2 国際交流講演会 (1) 期日 平成19年8月17日（金） (2) 場所 サンパール荒川 3階小ホール (3) 講師 北澤豪氏（元プロサッカー選手） (4) 内容 区長挨拶 国際交流高校生サミットの概要映像を放映 国際交流高校生サミット参加者による共同宣言の発表 社会貢献・国際交流についての講演				
経過	・平成19年2月22日 庁議承認 ・平成19年2月28日 助役決定				
必要性	荒川区の未来を担う高校生が、サミットプログラムを通して国際性と多文化共生の意識を育くむとともに、区の国際交流事業に理解と協力を得る。区制施行75周年を記念するとともに区民の国際交流への理解を深める。				
実施方法	（3委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 国際交流高校生サミット運営業務委託契約 15,606千円				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						25,100		
決算額（20年度は見込み）						15,606		
人件費						2,562		
【事務分担量】（%）						30%		
合計（+）	0	0	0	0	0	18,168	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	18,168	0	
実績の推移	事項名							
参加都市数							11	
参加人数							31	
記念講演来場者数							235	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料			国際交流高校生サ ミット運営業務委託	15,606		

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	参加都市数			10			
	参加人数			30			
	記念講演会来場者数			250			

（問題点・課題 指標分析）	<p>「私たちにとっての豊かさ・幸せ」というテーマについて、意見交換し、共通認識を持ち、共同宣言を発表した。この成果を広く荒川区内外に広報、周知していくことが重要である。その具体策として、HP・区報・CATVなどあらゆる媒体を駆使し、成果を広めることが区民の国際理解につながるものとする。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容
	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	見直し	交流事業の活性化につながる事業として実施した。（周年事業）

議 会 要 旨 問 状	18年三定 「荒川・友好都市・子供サミット」について
----------------------------	----------------------------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	荒川区・小野町交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	金田幸三	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）					
事務事業の種類	新規事業	（ 20年度 19年度 ）		建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	19年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図る。				
対象者等	区民等				
内容	<p>現在国内都市18都市と交流を行っているが、平成17年度より交流を開始した小野町とは、川の手荒川まつりへ出店するなどの交流を行っている。</p> <p>平成19年度の交流は、荒川区の青年団体と小野町の商工会青年部を中心とする青年同士の交流を、荒川区青年団体連合会に交流事業への協力を求め実施した。</p> <p>《交流事業実施内容》</p> <p>（1）町内史跡歴史的文化財の鑑賞 [小野町内を観光し小野町を知る]</p> <p>（2）交流内容</p> <p>スポーツ交流 [小野町の青年と共にスポーツを楽しみ、交流を図る]</p> <p>勉強会 [小野町の民俗・歴史について講演を聴き、あわせて荒川区の紹介も行い双方の理解を深める]</p> <p>懇親会 [小野町の青年と自分の町や将来について語り合い交流を深める]</p> <p>（3）体験事業 [地域の人々の生活を学ぶため、住民の方の指導によりそば打ち等の体験をする]</p>				
経過	福島県小野町とは、平成17年度に小野町長が荒川区長を来訪したことを契機に交流が始まった。これまでは川の手荒川まつりのふるさと市に出店するなどの交流を行っているところである。 平成20年度より「国内都市交流事業」へ組み替えしたため、「農山村生活体験事業」としては19年度をもって終了。小野町との交流事業は20年度も実施する。				
必要性	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深め、区民の心の豊かにし、相互の町の活性化を図る。				
実施方法	() (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						1,552	0	
決算額（20年度は見込み）						373		
人件費						2,135		
【事務分担量】（%）						25		
合計（+）	0	0	0	0	0	2,508	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	2,508	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			謝礼	36		
	職員旅費			近接地外旅費	26		
	特別旅費			特別旅費	0		
	食糧費			打合せ会賄い	0		
	一般需用			消耗品費	5		
	役務費			郵便料・保険料	0		
	使用料及び賃借料			バス借上げ・宿泊費	306		

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	参加人数（人）				20		荒川区からの交流事業参加人数

（問題点・課題）	<p>受け入れ先の体制が整っていることが条件となるが、交流事業への参加人数が少ないため、より多くの方に参加してもらうための方法を検討する。</p> <p>19年度は青年団体同士の交流事業を実施したが、交流する人々が固定化してしまう可能性があるため、交流対象の選考にあたって考慮する必要がある。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	青年団体以外の年代の方々にも小野町との交流の機会を創出する。	多くの年代の方の交流を進めることによって、双方の自治体の民間レベルにおける交流が多方面に広がり活発となる。
	交流事業に参加する方々の費用負担を軽減するための支援をする。	参加者の費用負担を軽減し、参加人数の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	見直し	20年度より「03-02-02 国内都市交流事業」に統合。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	あらかわキャラバン事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	奥田徹	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	あらかわキャラバン事業（07-85-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	20年度	根拠		
終期設定	有 無	25年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加するなどして、人と人との交流は図られてきたが、芸術・芸能・文化面で各都市を代表する団体・個人の交流は伝統芸能以外は他は十分ではない。				
対象者等	荒川区内で、交流都市へ出かけて文化・交流事業を展開できる団体及び個人。1年に1～2団体程度、海外都市との交流も目指す。				
内容	派遣団体とは、キャラバン隊としての5年間程度の協定を締結をし、毎年、異なる交流都市に出向いて、交流活動を行う。 区は、交流都市との調整を実施するとともに派遣に必要な交通費、宿泊費等の必要経費を負担する。				
経過	平成20年度はあらかわハーモニーキャラバン隊として、区事業でも実績のある荒川少年少女合唱隊を交流都市に派遣して、現地でのコンサート活動や地元の音楽サークルや小中学校での交流事業に参加する。				
必要性	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加し、名産品を紹介・販売するなどが中心になっているが、それぞれの都市を代表するような団体の交流は伝統芸能分野の他は十分に図られていない。 芸術・芸能・文化の面で、荒川区から区を代表する団体・個人を紹介するという面を強調する必要がある。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

		（単位：千円）						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額							795
	決算額（20年度は見込み）							795
	人件費	/	/	/	/	/	/	/
	【事務分担当】（%）	/	/	/	/	/	/	/
	合計（+）	0	0	0	0	0	0	795
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	795	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	旅費					職員旅費・特別旅費	56
	需用費					食料費	128
	役務費					保険料	23
	使用料及び賃借料					その他使用料及び賃借料	541

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値（22年度）	
標	参加団体等の数				1	2	あらかわキャラバン隊として参加する団体の数
	訪問都市数				1	4	キャラバン隊が訪問する交流都市の数

（問題点・課題分析）	区を代表するような団体の発掘
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	芸術文化面で区を代表する個人・団体を交流都市に派遣し、交流促進とともに芸術文化振興を図る。

議会議況（要旨）	
----------	--